



# MEL ニュース

(2018年6月 第3号)

(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会  
事務局

各社、各団体とも総会開催に向け、準備に多忙な日々をお過ごしのことと思います。日本の水産業界は国の水産政策が大きく変わろうとする中、前年の決算は主要魚種の記録的な不漁もありご苦労が多かったことと思います。

また、漁業、養殖にとっても、加工、流通にとっても人手不足が厳しいボディブローになりつつあります。

平年より早い梅雨に入ると共に全国的に荒れた天気が続いております。東京はオリンピック・パラリンピックに向けての工事が一段と加速しており、一日と迫ってくるオリ・パラ需要への期待を背景に、MELの認証取得に関する問い合わせの切実さに、事業者の皆様への認証取得への機運の高まりを感じます。

その様な中で、MELは世界に向けて思いを訴える正念場を迎えております。挑戦者の心を忘れずに、一つひとつの情報と課題を関係者間でキッチリ共有しながら着実に対応して参ります。

## 1. GSSI への承認申請について

MELにとって最優先で取り組んでおりましたGSSIへの承認申請については、今後のプロセスをスムーズに進めるため、GSSI側と今後のタイムスケジュールを具体的にすり合わせた結果、承認取得目標を当初の予定通り来年2019年春(3~5月頃)とすることなどを確認(全てが順調に運んでという前提ではありますが・・・)し、双方が合意する申請のステップに移行しつつあります。

MELとしてはGSSIとのすり合わせの状況を踏まえながら、漁業、養殖、流通加工とも一段と固めると共に完成度の高い申請書を事務局あて提出出来る様取り進めております。GSSI承認申請は、MEL事務局にとっては勿論のこと、専門部会や支援頂いているチームにとっても未経験のことであり、また英語での申請であるだけにネイティブのコンサルタントによる申請書のチェック等も一つ一つ丁寧に仕上げなければならず、こういった地道な取り組みが大切だと痛感しております。

また、先月号でご報告しました様にGSSIが指名する専門家による書

類審査に先立ち東京大学の八木教授の研究室が主催された国際シンポジウムに出席のために来日した関係者との打ち合わせやコンサルタントによる事務所訪問等を実施し、完成度の高い申請書となるよう取り組んでいます。

他方で、国際情勢に目を向けると、GSSIの承認申請が世界的に加速しており、国際的な流れは激変しています。このため、予期せぬ制約要因を大局的に判断していくことがより重要になると考えています。

## 2. MEL-AEL 統合に関する共同記者会見について

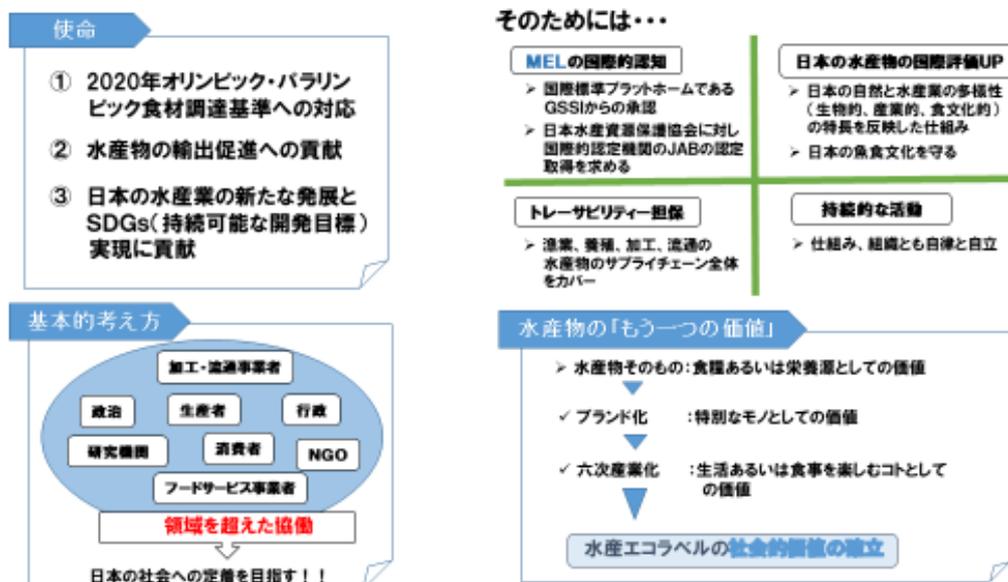
MELとAELの統合に関する取り決めは既に確認事項として3月16日双方のホームページ上に公表しております。その後も問い合わせが続いておりますので、AELの認証既取得者（養殖認証36件、流通加工18件）及びこれから認証を申請しようと検討されている方々に対するAELからMELへの移行や条件の説明を行うため、6月8日に合同記者会見を開催しました。説明内容につき専門紙等に掲載されましたので、様々な反応が出ております。水産エコラベルの確立を通して、日本の水産業の新たな発展に貢献出来る様肅々と進めて参ります。

## 3. 自民党水産部会、水産総合調査会合同会議へのMELの状況報告

5月31日に開催された自民党水産部会、水産総合調査会合同会議においてMELの現状と今後に関する報告を行いました。

限られた時間の中でありましたが、好意的に受け止めていただけたと感じています。報告の中でMELが目指すことを次のPPTシート様に訴えました。

### 「日本発の水産エコラベル」-MELが目指す姿



#### 4、事務局体制強化

専任の事務局員として、新たに管理系須藤佳澄（事務局次長）、技術系田村實（技術部部長）が着任しました。当面、須藤がガバナンスとマネージメント及び流通加工を担当、田村が漁業、養殖を担当します。

なお、2007年に大日本水産会がマリン・エコラベル・ジャパンを立ち上げて以来担当してきました事務局長の西村が6月末をもって退職することになりました。長期間にわたる皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、本人の労を多としたいと思います。

事務局の新メンバーはMELのこれまでの経緯など過去の経験知は当然ないわけですが、その分これまでの各人の人生経験とともに、関係する多くの方々のお力をお借りしながら、社会と産業の未来にお役にたてる「日本発の世界に認められる水産エコラベル」を作り上げて参ります。

どうか新メンバーに温かいご支援を賜ります様お願い申し上げます。

#### 5. MEL 認証取得に関する説明会開催

年間スケジュール化されている水産エコラベルの認証取得に関する講習会に加え、各地から要請があり説明会に出向いております。

- ・5月8日福井県海水養魚協会総会後の漁業研修会（ふくい農林水産支援センター主催）、来賓としての福井県水産課長他を含め23名出席。
- ・5月10日神戸市で全国海水養魚協会役員会、長元会長以下役員。
- ・5月23日気仙沼市・東京海洋大学連携事業「海と生きる水産セミナー」気仙沼市長、東京海洋大学副学長等を含め60名出席。

（気仙沼市はメカジキ、ヨシキリサメ延縄漁業でMSC認証取得に取り組んできたが難航しており、MELに関する関心が高まっていたタイミングで盛況でした）

年間スケジュールの第1弾として、6月12日に仙台で開催された「東北復興水産加工品展示商談会」のサイドイベントで「日本発の水産エコラベル認証取得のための講習会」を開催しました。取得希望者より行政関係の方の出席が多い状況でしたが、熱心に聞いていただきました。

本年の水産エコラベル認証取得のための講習会のスケジュール（案）は

開催月	開催場所	対象事業者(案内先)	備考
6月	宮城(仙台)	福島県漁連(ヒラメ、ヤナギムシカレイほか)	東北水産加工展示会
7月	北海道	南かやべ定置協会、藤本漁業部(さけ、小型定置)、北海道定置漁業協会宗谷支部(宗谷さけ定置)、苫小牧漁協(ホッキガイ)	宗谷支部:2014年8月12日取得
8月	東京	近かつ協、日かつ協、北友水産(さんま)、深田サルベージ(サンゴ)、群上漁協(アユ)	ジャパン・インターナショナル・シーフードショー
9月	青森	十三漁協(シジミ)、三厩漁協(アブラツノザメ)	
"	富山	酒井水産・寒嶽大敷網(ブリほか)、輪島漁業生産組合(まき網、ブリほか)	輪島漁業生産組合:2015年9月8日取得

10月	島根	日本海かにかご漁業協会(ベニズワイ)	
"	沖縄	マリンリンク㈱(ソデイカ、マグロ)	
11月	福岡	糸島漁協(ハマグリ)	
"	福島	福島県漁連(ヒラメ、ヤナギムシカレイほか)	
12月	愛知	由比漁協(サクラエビ)、愛知県しらす・いかなご船びき網連合会(イカナゴ、イワシ等) 宇都宮水産水産㈱(キンメダイ)	
1月	高知	土佐のかつお流通対策協議会(かつお)、高知県漁協(キンメダイ、ゴマザバ)、 すくも湾漁協(キビナゴ)、徳島県水産課	高知おさかな祭り すくも湾漁協:2013年1月20日取得
2月	大阪	摂津船びき網漁業協議会(しらす、いかなご)、大内山川漁協・三重大学(アユ)	大阪シーフードショー

赤字は非認証だが、説明会希望の連絡があった事業者。

1. 生産段階認証にあわせてそれぞれのCoC取得事業者および開催近隣の大日本水産会会員にも案内する。
2. また、開催地近隣のAEL取得認証者へ説明会の案内をあわせて開催する。

事務局としてホームページ等で告知する他、出来る限り多くの皆様特に事業者にお声をかけ参加いただくことを心がけますが、皆様も水産エコラベルの存在感が高まる中、近くで開催される講習会への出席をお勧めいただければ誠に幸いです。

## 6. アドバイザリーボードの設置

6月1日付けで、MELの運営の質を高め、社会、認証取得者、消費者のお役に立てる様、会長、業務執行理事、事務局に対し意見やアドバイスを行うためアドバイザリーボードを設置しました。

アドバイザリーボードの議長役を務めていただく座長には横浜国立大学の松田裕之教授に就任いただきました。メンバーは個人の資格で参加いただくことを考えておりますが、科学者、NGO、メディア、消費者、流通、外食、生産者等をお願いしたいと考えており、既に数名の方々に内諾をいただいております。7月に最初の顔合わせの会が持てるよう準備をして参ります。アドバイザリーボードの設置要領についてはホームページに掲載予定です。

## 7. 外部機関によるコンサルティングの開始について

水産エコラベル普及推進のため、コンサルティング会社による認証取得希望者に対するコンサルティングが開始されます。その概要は

### マリン・エコラベル・ジャパン (MEL) 認証取得をお手伝いします

**第1次募集**



#### コンサルティング概要

弊社技術者が、MEL 認証取得を希望する事業者様のスムーズな認証取得に向け、事業所に伺い、現状をお聞き(※1)し、MEL との適合状況を分析の上、具体的な改善策をご提案(※2)します。

※1：施設状況や書類の確認、事業者様へのヒアリング調査等を行います。

※2：事業者様におけるコンサルティング費用のご負担は基本的にありません ✓

(1件 100 万円が上限ですが、上限を超える可能性が生じる場合には事前に事業者様にご説明します。)

#### 対象事業者

- 2018 年に改訂された MEL 漁業認証、及び新設された MEL 養殖認証の新規取得を希望する国内の漁業者・養殖事業者の方
- 2018 年 3 月までに MEL または AEL(養殖エコラベル)の認証を既に取得した事業者のうち、新規規格への更新を希望される方

#### 対象漁業・養殖業 (2018 年 6 月現在)

1 魚種、1 漁法・養殖方法ごと (かつお一本釣り漁業、ぶり小割式生簀養殖業など) に 1 件として認証取得支援を行います。

漁業認証：シロサケ定置網漁業 (順次拡大予定)

養殖認証：魚類・貝類・海藻類等の海面養殖及び陸上養殖等

CoC(流通加工)認証：MEL の認証水産物を販売、加工する場合  
(自社加工場や通販を含む)

#### 採択予定数及び決定予定日

採択予定数：10 件 (新規取得、更新の合計数)

決定予定時期：7 月末頃

※採択に当たっては、魚種、漁法、養殖方法、事業者等のバランスを考慮して決定することとします。

#### 受付期限(第1次募集)

**平成 30 年 7 月 20 日(金)迄** (※採択件数に応じて、再募集や期限延長を行う場合があります。)



本事業は、水産庁補助事業「平成 30 年度日本発の水産エコラベル普及推進事業」の一部として実施するものです

の通りで、既に申し込み受付が始まっていますが、水産庁の補助事業でもあり

積極的に活用いただきたいと思います。

#### 8. 定時総会開催の件

定時総会のご案内が遅れており誠に申し訳ありませんが、6月22日（金）15：30より共同通信会館5階「A会議室」で開催します。MELが本格的に活動を始めて初年度の総会であり皆様のご出席をお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りします。

以上